



# 東中だより

目指す学校像  
キャッチフレーズ

生徒一人一人を大切にし 信頼される学校  
蕨東の あいさつ一つで笑東へ

生徒数(名)  
男子 210  
女子 174  
計 384

## 今回の修学旅行を通して考える学校行事への対応

校長 阿部 仁

### ～3年生の修学旅行出発を前にして～

梅雨の時期に行われることが多い修学旅行は空模様が気になるものですが、出発日である6月27日から28日にかけて、台風7号及び8号がダブルで日本列島、しかも関東付近を通過していく予報には頭を悩ませました。心配はただ一つ、「新幹線は予定通り運行されるのか?」です。加えて、26日の晩には、山梨県東部で震度6弱の地震が発生し、東海道新幹線は運転見合わせ(翌未明には復旧)。引率責任者として、まんじりともしない夜を過ごしたのは初めてでした。

### ～最近の校外学習行事への対応～

修学旅行のような宿泊を伴う行事では、学校所在地から離れた場所への移動と、普段と異なる場所での活動がメインとなるだけでなく、活動時間も長時間に及ぶことが多いだけに、行事遂行にあたって配慮すべき事柄は多岐にわたります。加えて、「学校(学校長)の判断」だけではどうにもならない状況への対応も生じます。公共交通機関の状況、受け入れ先施設等の状況などで、事前の計画が変更を余儀なくされることも多々あります。そのような場合への対応、すなわち、プランB、プランCへの計画変更が求められます。最近はこの状況が徐々に増えてきた感があります。それは、冒頭にも述べたように、急激な気象現象(ゲリラ豪雨による交通途絶)のみならず、昨今頻発している野生動物の人里への侵入(自然体験活動の規制)、景勝地を訪れる観光客の激増(自主見学活動への影響)など

で、臨機応変な対応の範疇を超える事態が増えてきており、最早そういった状況も考慮して様々な計画を立案・検討していくことの重要性が増しています。

### ～行事实施における「リスクヘッジ」～

どの業界でも同じだと思いますが、学校も例外ではなく、様々な危機管理体制が構築されています。不確実なリスクを把握し、それによって生じる損失を最小限に抑えること(リスクマネジメント)、突発的な事態が生じた際に、被害を最小限に抑え、迅速な対応と早期復旧を図ること(クライシスマネジメント)などが挙げられますが、これからの学校行事を考える際には、起こりうる損害や危機を予測し、その影響や被害を最小限に抑えるための予防策や回避策を講じる「リスクヘッジ」が大事になってくるのだらうと思います。

### ～生徒の思い出になる行事の創出～

今回も、旅行担当業者との間で、新幹線の運行状況次第で、Aパターン、Bパターン、Cパターンなどの行程変更について事前確認をしていました。幸いにも、通常運行にて予定した通りの行程となりましたが、仮に東京駅で何時間も足止めされた場合への詳細の詰めはまだまだの感があります。「想定外」の事態は起こり得ると肚を括り、予防策や回避策を幾重にも講じることで初めて、生徒にとって一生に思い出に残る学校行事となるのでしょうか。 - 了 -